Jミルク需給短信【4月】 2023年4月7日

Jミルクが2023年1月27日に公表した「需給見通し(※2022年11月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。
「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。 発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

≪生乳生産量は今年度最大の減少率～継続的な需要拡大で消費機運の醸成を≫

・2月の生乳需給実績は、飲用等向は前年比▲3.3%となったものの、生乳生産量は北海道、都府県ともに今年度最大の減少率を更新しており、全国で▲4.5%となった。生乳生産量の減少幅が飲用等向の減少よりも大きいことから、乳製品向は前年を下回った。なお、全国指定団体受託乳量(速報)では3月中旬まで前年比で▲5～6%で推移しており、新年度となる4月以降の生産量も前年を下回って推移するものと見込まれる。

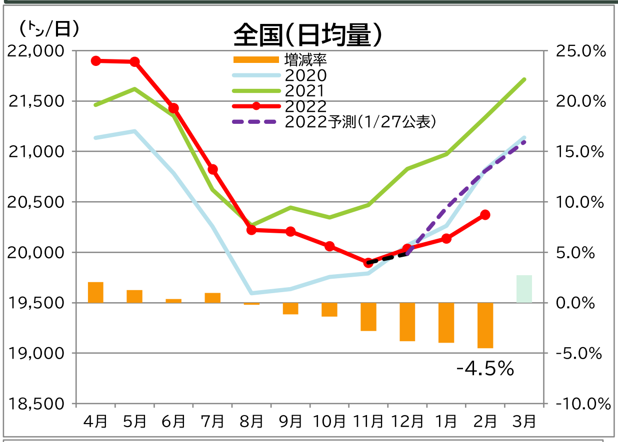
・乳製品向の仕向量減少から脱脂粉乳とバターの生産量も前年を下回っており、バターの在庫数量は業務用需要の回復等が主要因となって推定出回り量は前年を大きく上回り、在庫量は前年よりも大きく減少した。脱脂粉乳は全国協調の在庫解消対策と北海道(ホクレン)の対策効果による推定出回り量の増加も重なったことで、約35ヶ月振りに7万㌧台の在庫量となった。4月からの乳製品乳価引き上げに伴う製品価格改定の影響が懸念されており、脱脂粉乳の在庫量は依然として高い水準となるものと想定されるため2023年度も在庫解消対策継続による消化が不可欠となっている。

・3月の牛乳販売動向(インテージSRI+実績:前年比95.6%、Jミルク予測(牛乳業務用以外):95.7%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めとなる傾向にあることから需給見通しの予測値水準並み～上回る可能性が十分考えられる。

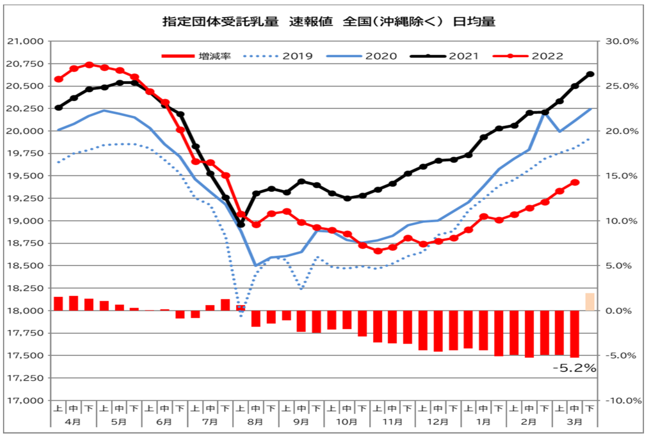
・2月のインバウンドは2019年コロナ禍前と比較して57%まで回復していることのほか、4月5日には中国からの入国に対する水際対策が緩和されており業務用を中心とした需要の拡大が期待される。一方で、帝国データバンクの推計では4月から食費で月2000円の負担増となるなか、4月から乳製品の価格改定や容量変更となったことによる消費への影響が懸念される。

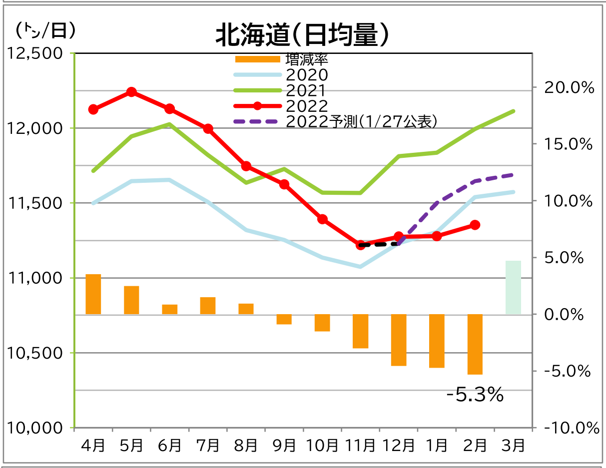
・生乳生産量のピークを控えており、GWには学乳休止による一時的な処理不可能乳発生の懸念も残る。引き続き家庭内における飲用需要の底上げが必要不可欠であるため、業界全体で継続的な需要拡大の取り組みによる牛乳乳製品の消費機運を高めることが重要となる。

【生乳生産量】 ※増減率は、日均量で算出。
(1)2月の生乳生産量は、全国570.4千㌧(前年同月比95.5%)、北海道317.9㌧(同94.7%)、都府県252.5千㌧(同96.5%)。
(2)Jミルク予測値(全国582.6千㌧、北海道326.1千㌧、都府県256.6千㌧)との比較は,北海道、都府県ともに大きく下振れとなった。
(3)直近の指定団体速報値は全国が3月中旬で同94.8%、都府県(沖縄除く)が同96.2%、北海道は3月下旬で93.5%となっている。北海道の22年度受託乳量は前年比97.7%となった。

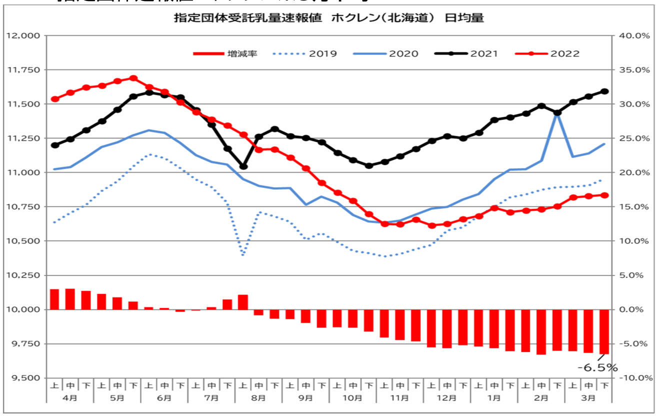


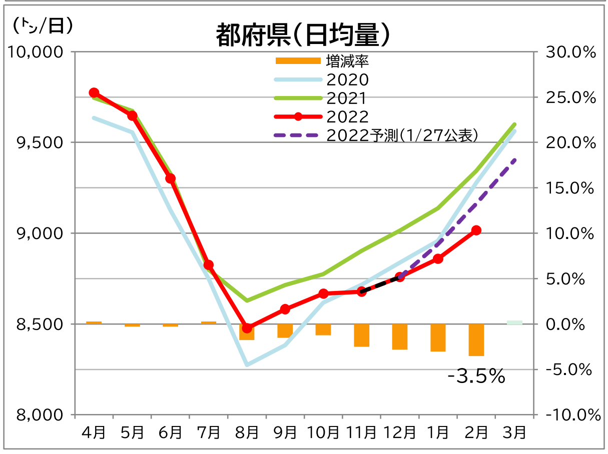
指定団体速報値 全国(沖縄除く)※3月中旬



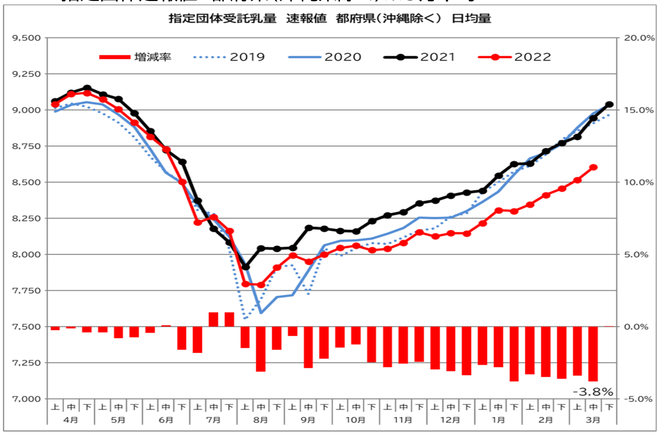


指定団体速報値 ホクレン※3月下旬



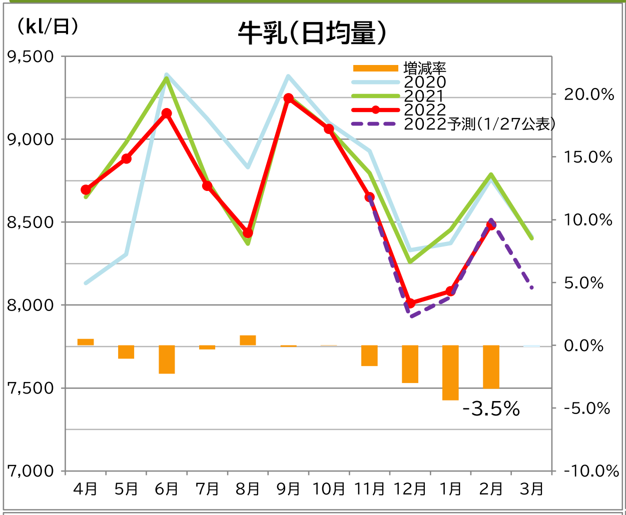


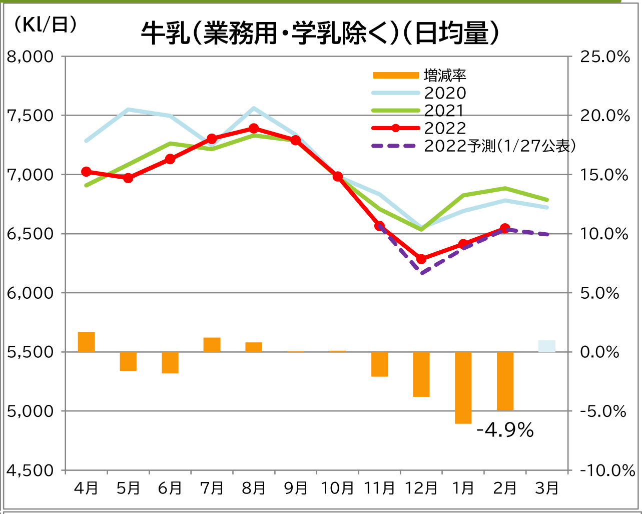
指定団体速報値 都府県(沖縄県除く)※3月中旬

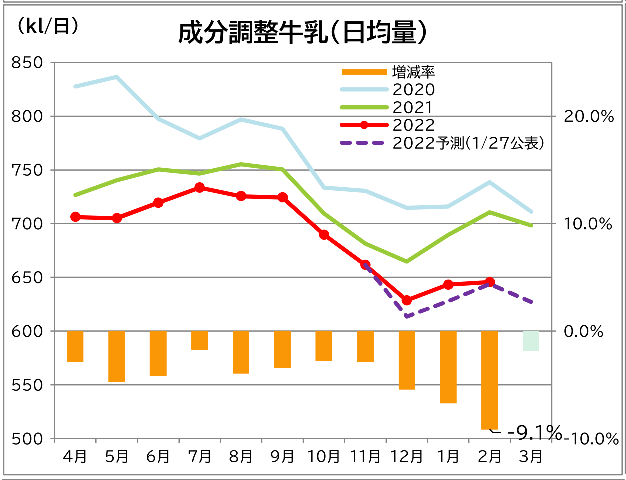


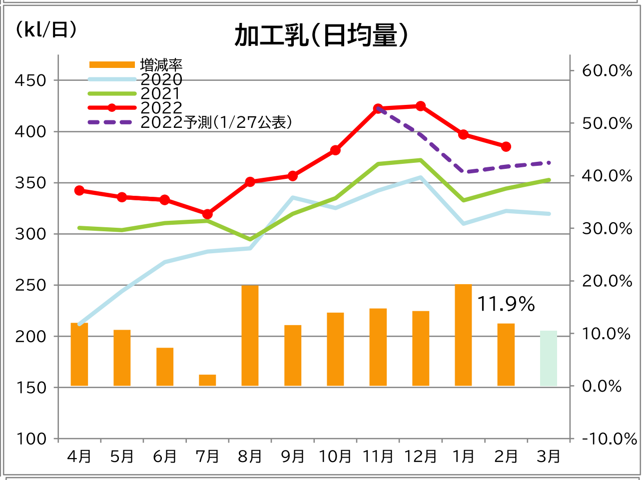
【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)2月の牛乳等生産量は、牛乳237.5千kl(前年同月比96.5%)、成分調整牛乳18.1千kl(同90.9%)、加工乳10.8千kl(同111.9%)となった。なお、「乳飲料」及び「はっ酵乳」の統計について、データの精査を実施中であり、後日公表となる(農林水産省HPより)。
(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同95.1%、「業務用」は同89.8%、「学乳」は110.4%。
(3)はっ酵乳(非乳業;1月)については、同103.1%と前年を上回った。

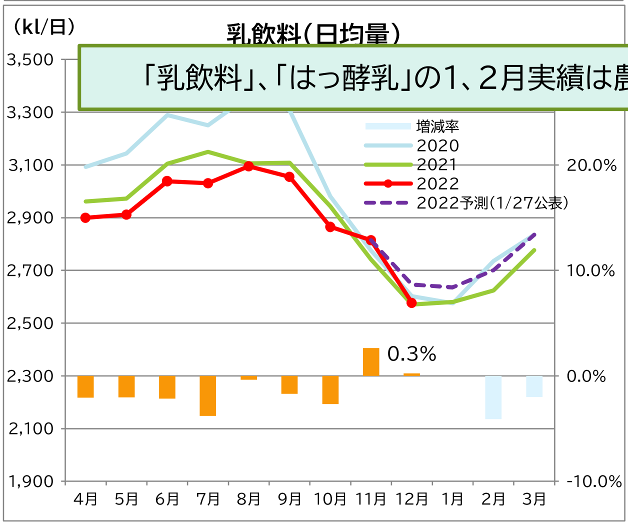


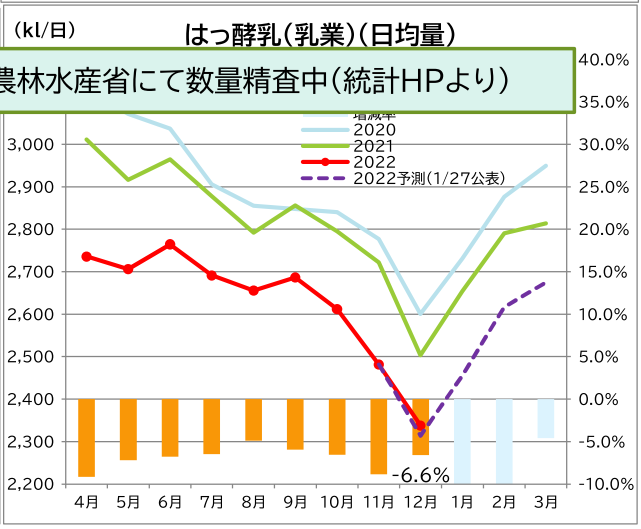






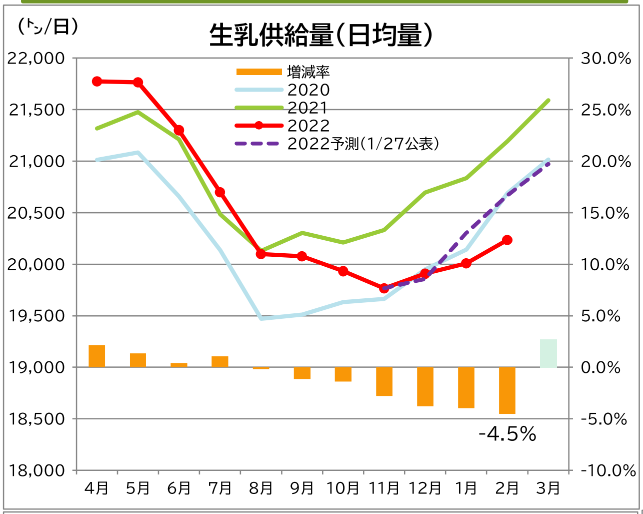
「乳飲料」、「はっ酵乳」の1、2月実績は農林水産省にて数量精査中(統計HPより)

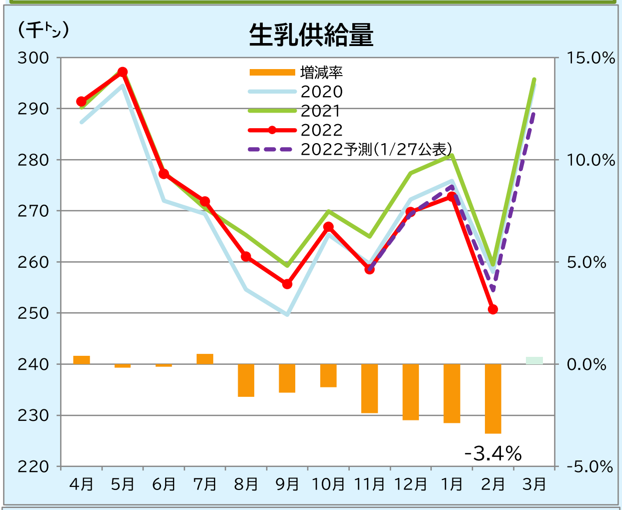


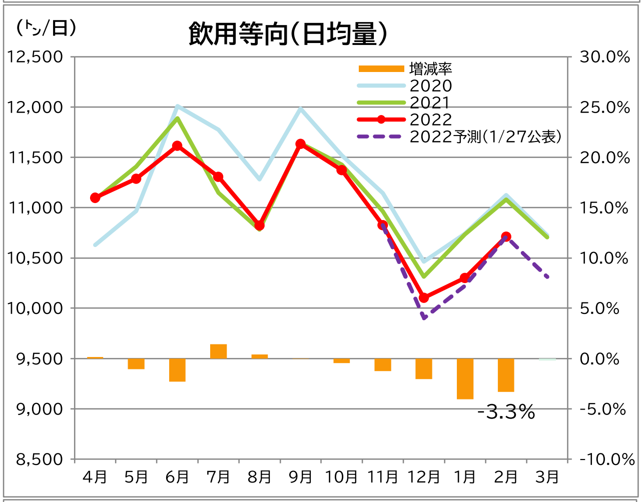


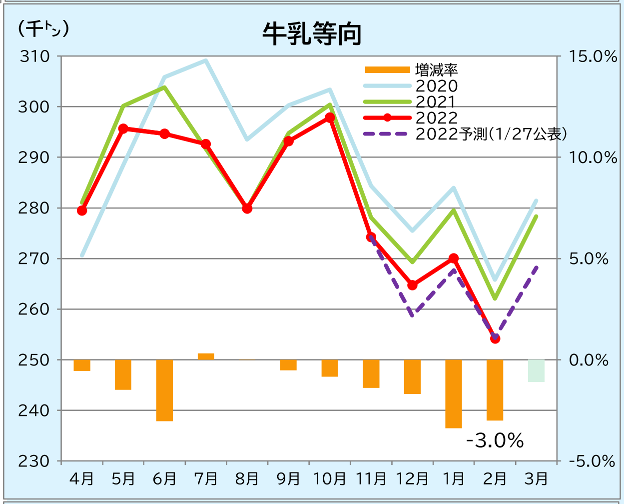
【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。
(1)2月の生乳供給量は566.6千ﾄﾝ(前年同月比95.5%)、飲用等向300.0千ﾄﾝ(同96.7%)、乳製品向(認定ベース)266.6千ﾄﾝ(同94.1%)。
(2)飲用等向、生乳供給量ともに前年を下回ったが、生乳供給量の減少幅の方が大きく、乳製品向は前年を下回った。
(3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:578.7千ﾄﾝ)は下振れ、飲用等向(予測値:299.9千ﾄﾝ)は横ばい、結果乳製品向(予測値:278.8千ﾄﾝ)は下振れとなった。

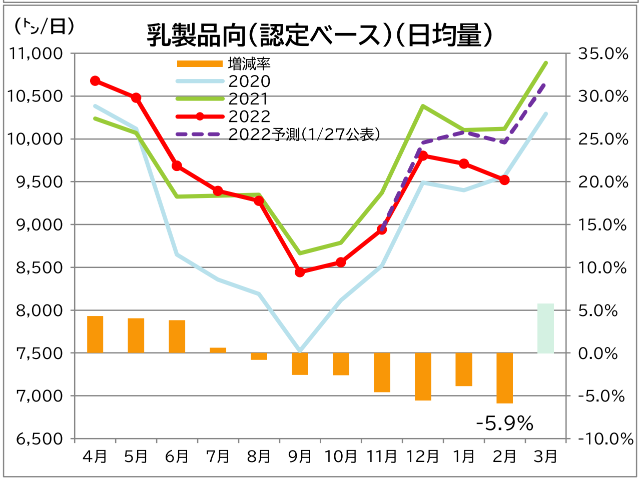
【都府県の生乳需給】
(1)2月は、生乳供給量250.7千ﾄﾝ(前年同月比96.6%)、牛乳等向254.2千ﾄﾝ(同97.0%)。
(2)北海道からの移入量について、31.7千ﾄﾝ(同92.3%)と前年を大きく下回った。
(3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:254.5千ﾄﾝ)は下振れ、牛乳等向(予測値:254.3千ﾄﾝ)は横ばい、北海道からの移入量は(予測値:32.6千ﾄﾝ)はやや下振れとなった。

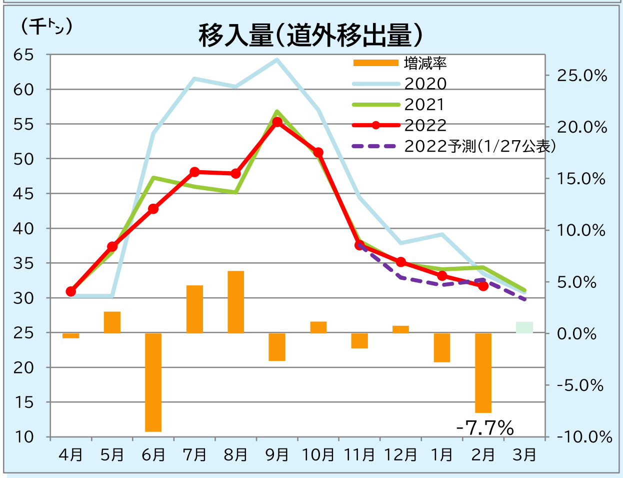












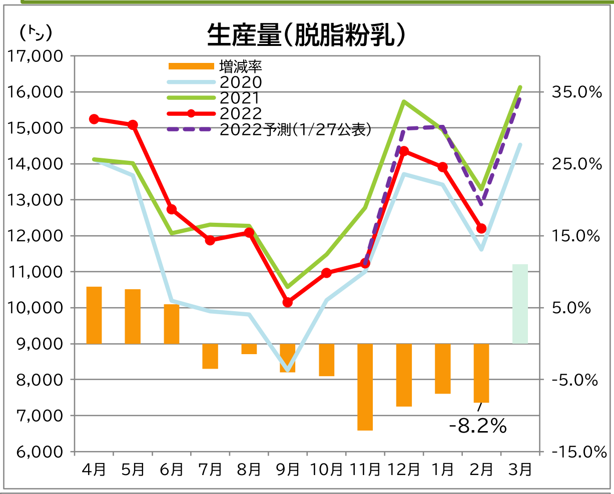
【脱脂粉乳・バターの需給】

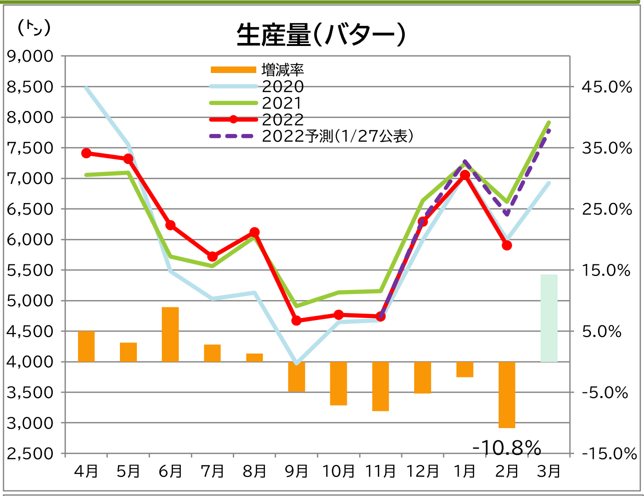
(1)脱脂粉乳について、2月の生産量は12.2千㌧(前年同月比91.8%)、推定出回り量は16.1千㌧(同126.8%)。結果、在庫量は78.0千㌧(同 78.5%)。生産量よりも出回り量が上回ったことから、在庫量は前月よりも減少した。国産脱脂粉乳への置換が進められており、在庫量は9か月連続して減少し、5ヶ月連続で前年を下回った。2020年3月以来35ヶ月振りに7万㌧台となった。

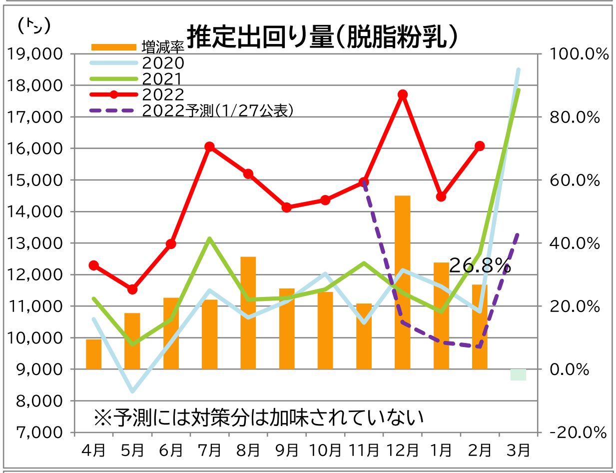
※推定出回り量には全国協調の在庫対策と北海道(ホクレン)の独自対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

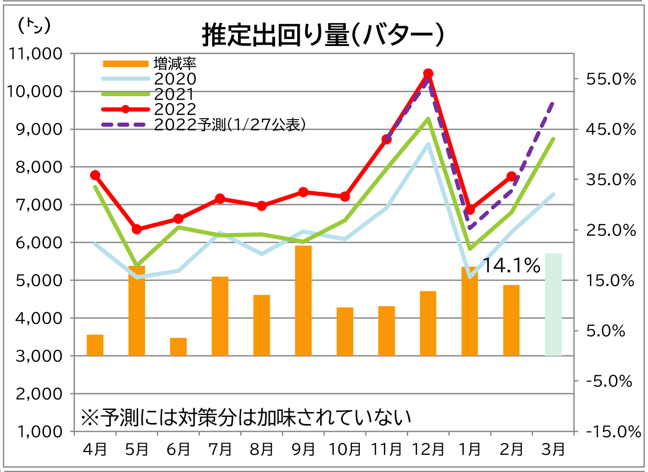
(2)バターについて、2月の生産量は5.9千㌧(同89.2%)、推定出回り量は7.7千㌧(同114.1%)。結果、在庫量は30.7千㌧(同77.3%)。生産量よりも出回り量が上回っており、国家貿易による輸入売渡分を考慮しても在庫は前月よりも減少した。在庫量は10ヶ月連続で前年を下回った。

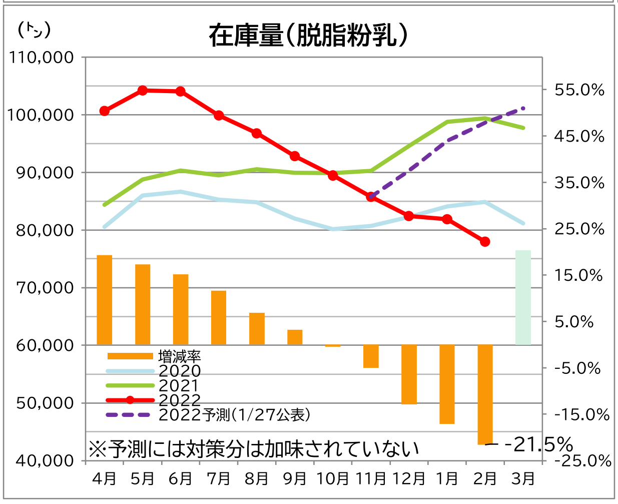
※推定出回り量には北海道(ホクレン)の独自対策による国産バターへの置換分を含む。

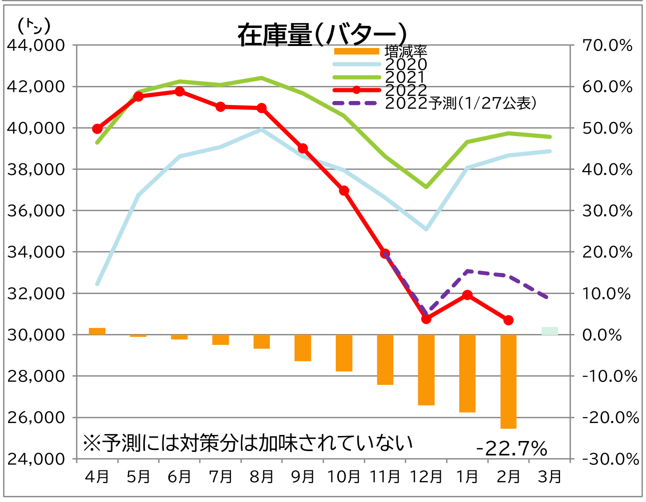












【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)3月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比95.6%、成分調整牛乳:同87.2%、加工乳:同97.6%、乳飲料:同101.1%。
牛乳類では同95.8%

【参考】2020年3月比…牛乳:88.8%、成分調整牛乳:78.2%、加工乳:91.0%、乳飲料:85.6%(牛乳類トータル:87.5%)

・販売単価は、牛乳:206.5円、成分調整牛乳:189.3円、加工乳:199.9円、乳飲料:160.3円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(3.27週)の販売個数は、牛乳:前年同期比96.8%、成分調整牛乳:同87.6%、加工乳:同103.4%、乳飲料:同102.4%。
牛乳類トータルでは同97.0%

【参考】2020年3月比…牛乳:87.5%、成分調整牛乳:77.1%、加工乳:95.2%、乳飲料:84.0%(牛乳類トータル:86.3%)

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。**データ転用はご遠慮下さい。**

【表① 牛乳類の月別販売動向】 単位:千個、円

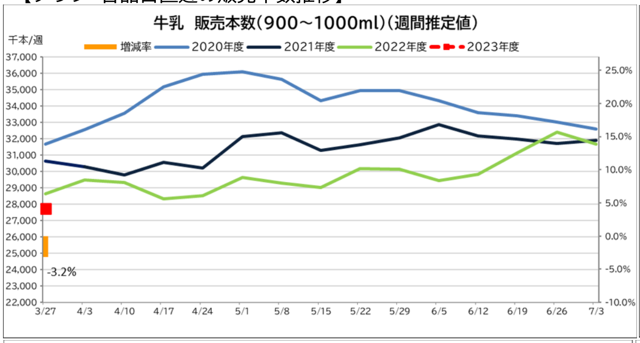
品目	区分	2022/10-	2022/11-	2022/12-	2023/1-	2023/2-	2023/3-	2023/3-2022/10価格差
トータル	販売個数	171,212	155,485	159,283	152,958	141,046	157,195	15.2
	販売個数前年比	98.2	98.2	96.6	93.9	93.1	95.8	
	販売単価	183.1	195.7	197.5	198.0	197.8	198.3	
牛乳	販売個数	130,277	117,037	120,429	115,620	106,788	119,370	16.3
	販売個数前年比	98.3	97.3	95.6	92.8	92.4	95.6	
	販売単価	190.2	204.4	206.2	207.0	206.3	206.5	
成分調整牛乳	販売個数	12,796	11,463	11,550	10,874	10,022	10,988	15.6
	販売個数前年比	97.9	95.6	92.3	88.9	86.4	87.2	
	販売単価	173.7	186.9	188.3	189.0	188.0	189.3	
加工乳	販売個数	3,476	3,215	3,257	3,068	2,907	3,253	9.8
	販売個数前年比	97.2	99.3	98.7	95.5	96.2	97.6	
	販売単価	190.1	199.1	199.7	200.8	198.6	199.9	
乳飲料	販売個数	24,664	23,771	24,047	23,397	21,330	23,584	10.6
	販売個数前年比	97.9	104.2	104.0	102.5	100.2	101.1	
	販売単価	149.7	156.7	157.6	157.3	159.7	160.3	

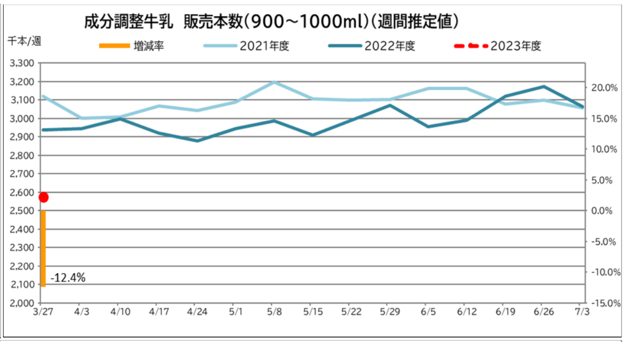
速報値

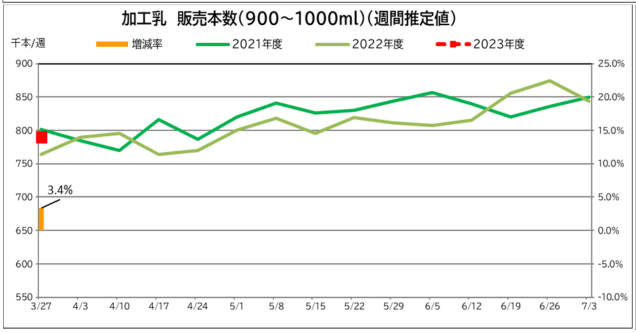
【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

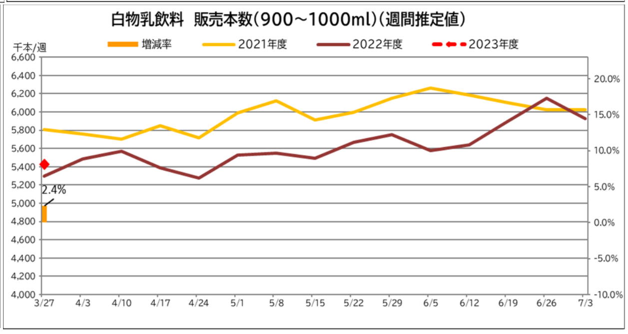
品目	区分	2.6-	2.13-	2.20-	2.27-	3.6-	3.13-	3.20-	3.27-	3.27-10.24価格差
トータル	販売個数	35,637	34,940	35,262	35,343	36,161	35,426	35,642	36,513	15.1
	販売個数前年比	92.8	92.5	93.5	96.1	96.6	95.6	95.1	97.0	
	販売単価	197.7	197.8	197.9	197.9	198.2	198.3	198.2	198.4	
牛乳	販売個数	26,979	26,532	26,687	26,774	27,452	26,954	27,090	27,724	16.4
	販売個数前年比	91.8	92.4	92.9	96.1	96.6	95.4	94.7	96.8	
	販売単価	206.2	206.1	206.4	206.2	206.4	206.4	206.6	206.7	
成分調整牛乳	販売個数	2,524	2,454	2,542	2,473	2,529	2,469	2,481	2,575	15.2
	販売個数前年比	87.6	82.6	87.8	86.3	88.5	87.5	87.5	87.6	
	販売単価	188.0	188.4	187.7	189.1	189.3	189.7	188.7	189.1	
加工乳	販売個数	708	729	720	769	731	735	720	790	6.7
	販売個数前年比	93.7	94.9	94.6	102.4	95.8	97.4	95.5	103.4	
	販売単価	200.6	196.8	199.5	196.7	201.2	199.2	201.3	197.6	
乳飲料	販売個数	5,427	5,224	5,313	5,327	5,449	5,269	5,351	5,425	10.9
	販売個数前年比	100.5	98.0	100.1	100.9	101.4	100.4	101.4	102.4	
	販売単価	159.5	160.2	160.1	160.3	160.6	160.5	159.7	160.8	

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】









【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】
(1)直近の週次動向(表④参照)
　直近(3/27週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90～250ml):前年同期比105%以上、個食タイプ(70～130ml):同90%以上、大容量タイプ(350～500ml):同90%未満。
(2)全ての品目で前週よりも販売個数が増加した。ドリンクタイプは前年を大きく上回っている。

※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

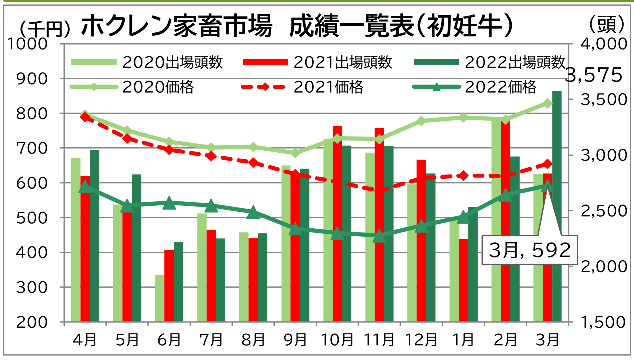
【表④ ヨーグルト類の販売動向】

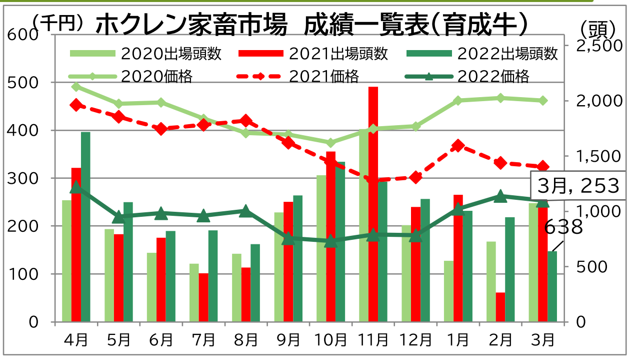
品目	2.6-	2.13-	2.20-	2.27-	3.6-	3.13-	3.20-	3.27-
ドリンクタイプ	↗	→	↗	↗	↗	↗	→	↗
個食タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘

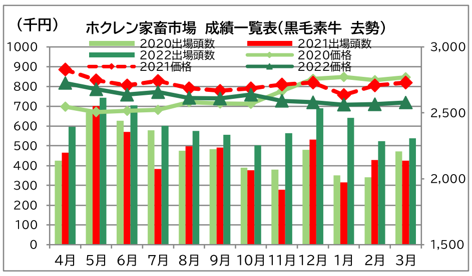
↓	:前年比90%未満	↗	:前年比105%以上110%未満
↘	:前年比90%以上100%未満	↑	:前年比110%以上120%未満
→	:前年比100%以上105%未満	↑	:前年比120%以上

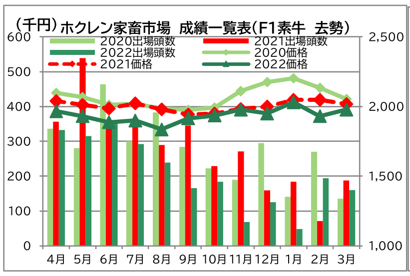
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

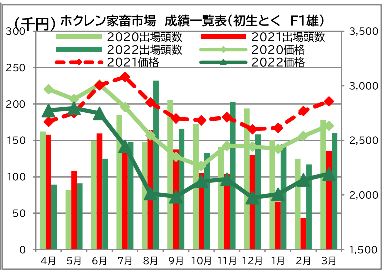
【家畜販売価格動向(税込)】
(1)3月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は592千円(前年同期比90.4%)、育成牛価格は253千円(同78.1%)、和牛素牛(去勢)価格は719千円(同87.7%)、F1素牛(去勢)価格は391千円(同96.1%)、F1初生(雄)価格は104千円(同51.1%)。初妊牛は4ヶ月連続で価格が上昇した。F1初生(雄)は3ヶ月連続で価格が上昇しており、8か月振りに10万円を上回った。
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同126.1%、育成牛:同49.6%、和牛素牛(去勢):同108.0%、F1素牛(去勢):同95.3%、F1初生(雄):同106.9%。※ホクレン家畜市場集計表 速報値(https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx)



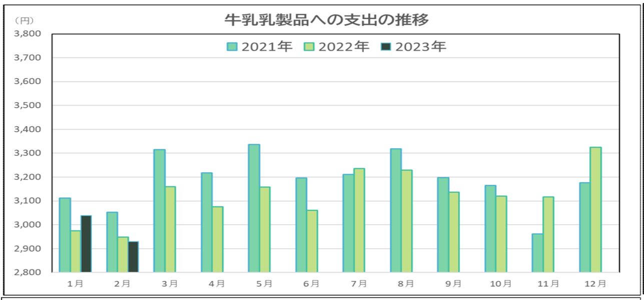


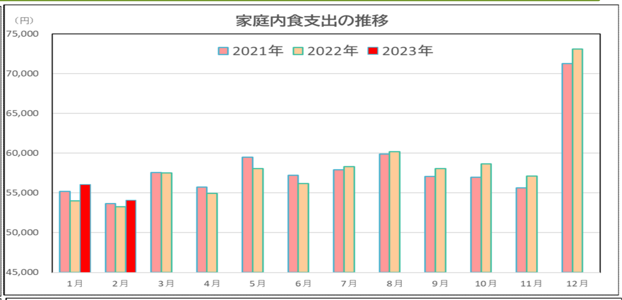


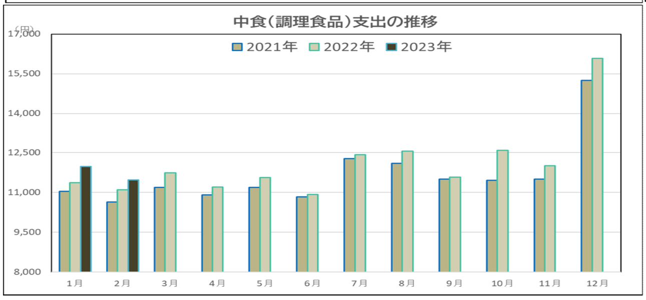


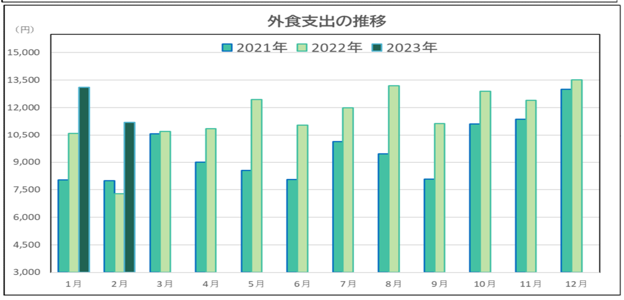


【家計支出の動向】
(1)2月の支出額について、外食153.8%、中食103.4%、内食101.5%と前年を上回り、食料全体への支出額は107.1%となった。
(2)牛乳乳製品の支出額は、前年を下回った。(牛乳乳製品全体前年比:99.4%、(うち牛乳97.4%、乳製品100.6%))
※総務省家計調査 (家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)

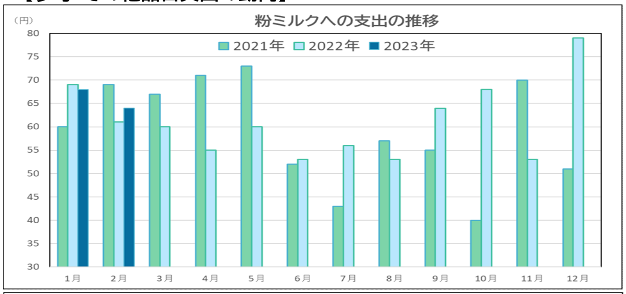


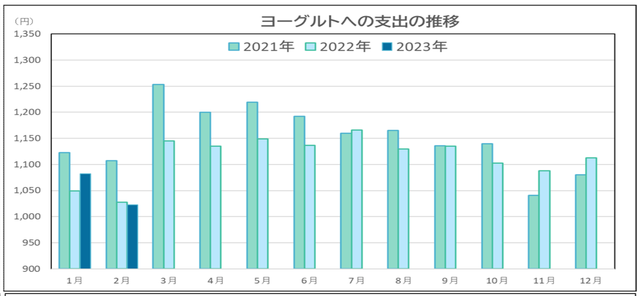


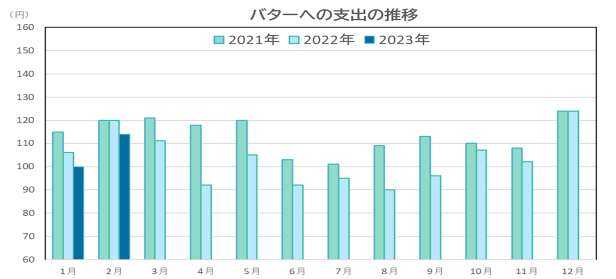


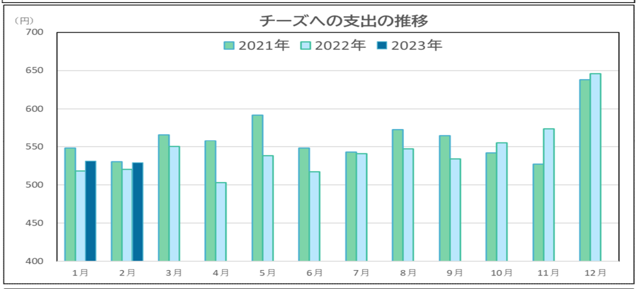


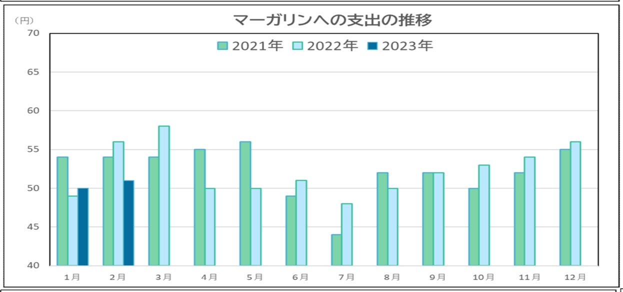
【参考:その他品目支出の動向】

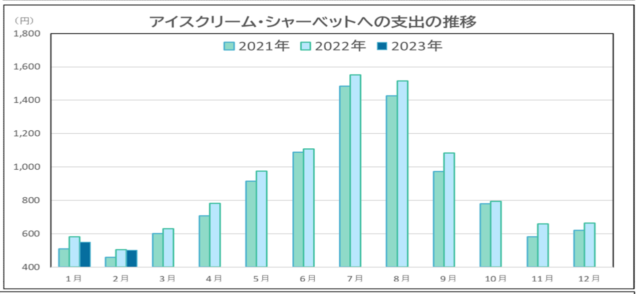


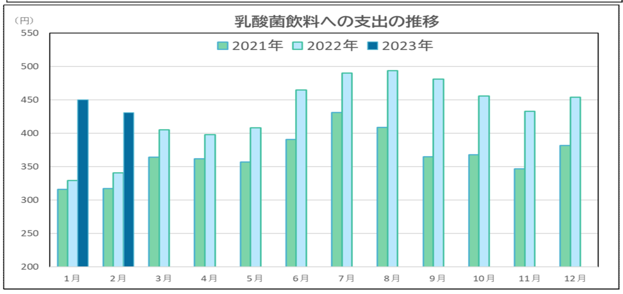


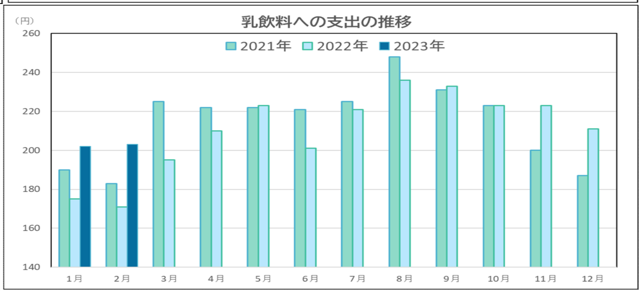








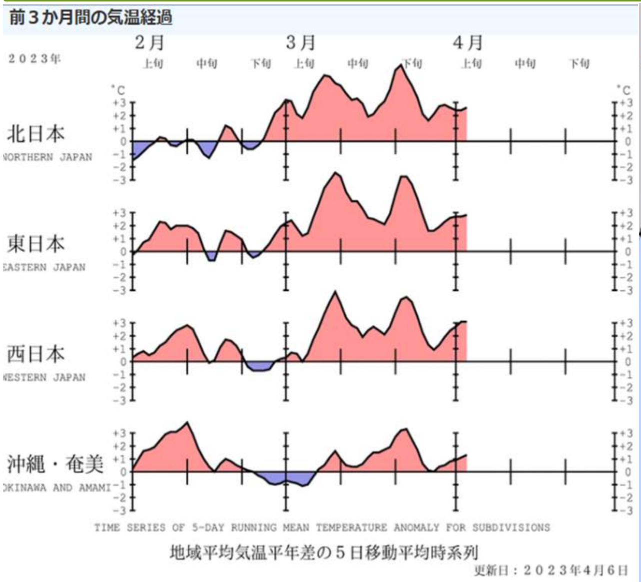


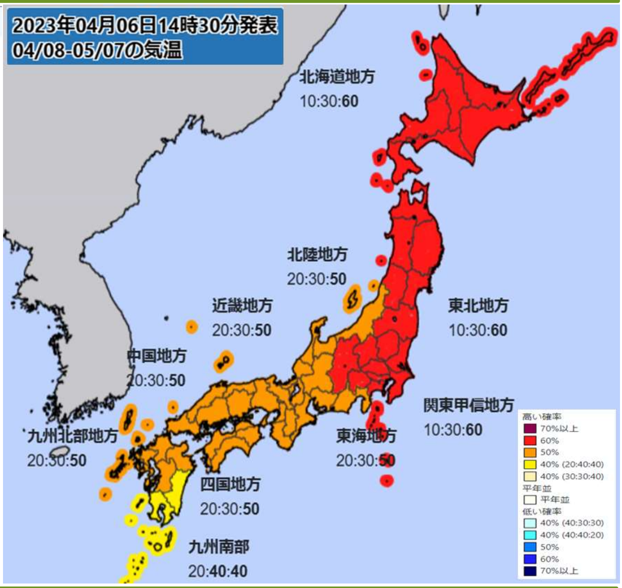


【気象庁HPより全国1ヶ月予報(4/8-5/7)抜粋】

期間の前半を中心に暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は、北・東・西日本で高く、沖縄・奄美で平年並か高いでしょう。特に、北・東・西日本では、期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。

北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。北日本太平洋側と東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。※出典:気象庁

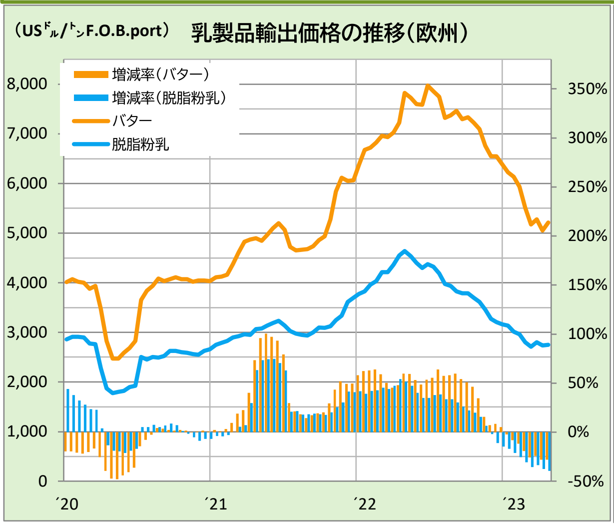
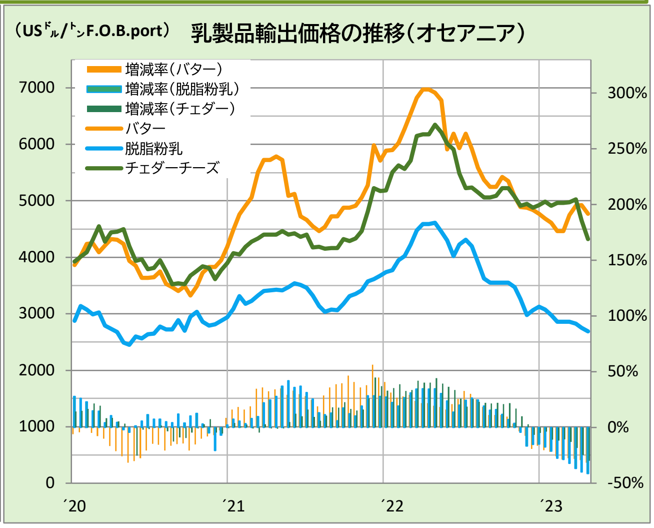




【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(3月下旬)

・欧州:脱脂粉乳2,800ドル/トン、バター5,200ドル/トン中心

・オセアニア:脱脂粉乳2,700ドル/トン、バター4,800ドル/トン、チェダーチーズは4,300ドル/トン中心

※出典:米国農務省(USDA)